

保全と利用の充実化

- 大山頂上の避難小屋や木道等を改修するとともに、入山協力金の導入を検討するため社会実験を実施。



大山頂上

グランピングの販売

- 三瓶山地域において、自然、神楽を核とする歴史文化、地元の人との交流を楽しむアクティビティと組み合わせ、グランピング事業を実施。



神楽野外公演

ユニークなツアーの開発

- 三瓶山地域の大平山において、展望デッキ等を整備し、日の出を楽しむ体験プログラム「天空の朝ごはん」で活用。
- 大山蒜山周辺地域において、オオサンショウウオ保全体験ツアーを造成・販売。料金の一部は保全活動に還元。



- 島根半島東部の海岸線を巡る「神話語りとジオクルーズツアー」を造成・販売。



周遊の促進

- 蒜山地域においてサイクリングロードに案内看板等を整備するとともに、サイクリングツアーを開発。蒜山野営場でのグランピングや「手ぶらでキャンプ」サービスと組み合わせたプロモーションを実施。



- 島根半島西部地域の名所を案内する周遊観光タクシー「うさぎ号」を造成・販売。

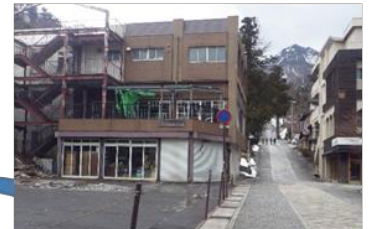


- 隠岐4島のサイクリングマップを作成するとともに、e-bikeを含めレンタサイクルを事業化。



廃屋撤去による景観改善

- 大山寺地区において廃屋を撤去しカフェや地域特産品の販売を行う商業施設を整備。

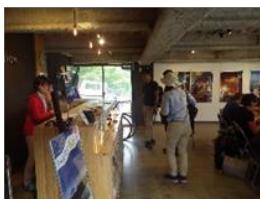


官民による施設のリニューアル

- 大山寺地区の玄関口に位置する大山ナショナルパークセンター、大山自然歴史館、民間施設のコモレビト（ツアーデスク、カフェ、ホテル）の3施設を改修するとともに多言語化など機能強化。



大山ナショナルパークセンター



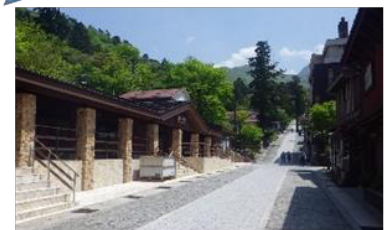
ツアーデスク

拠点施設の新設

- 隠岐地域の各島に情報発信施設を整備。



隠岐シオゲートウェイ



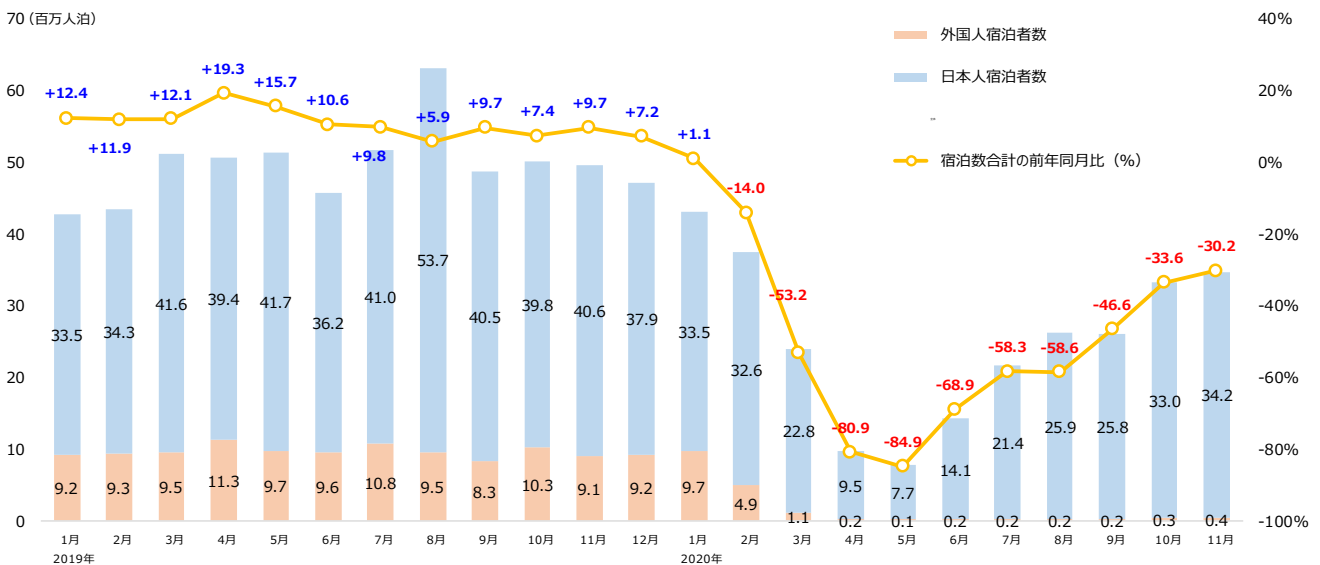
大山参道市場

1. 4 新型コロナウイルス感染症による影響

2020年（令和2年）1月以降、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、日本人及び外国人の旅行需要に大きな影響をもたらした。下図では、日本人旅行者と外国人旅行者の延べ宿泊者数の推移や、両者の合計値の前年同月比を示している。

日本人旅行者の宿泊数は2020年（令和2年）3月から大幅な減少がみられ、全国的な緊急事態宣言が発令されていた期間を含む同年5月を底に、その後は同年7月下旬に開始されたGoToトラベル事業の展開等を受けて一定程度の回復が認められるものの、例年の水準には達していない。

外国人旅行者の宿泊数は、同年2月から政府による入国制限措置や検疫の強化が段階的に実施されたことを受けて顕著な減少がみられ、5月には1万泊にまで落ち込んだ。2021年（令和2年）2月時点で、観光目的での入国は未だ認められておらず、外国人旅行者の回復はみられない。



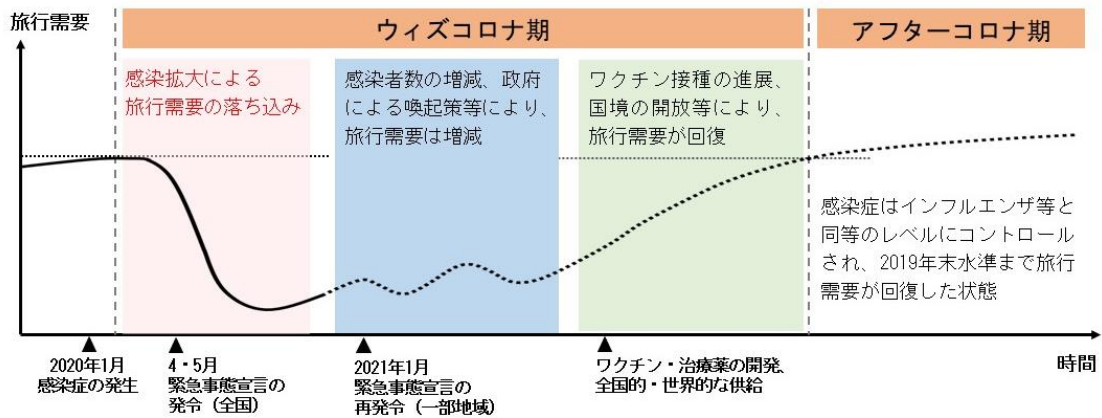
※ 観光庁 宿泊旅行統計調査をもとに作成

図 10 2019年及び2020年の各月における国内の宿泊施設における延べ宿泊者数

日本国内の感染者数は増減を繰り返しており、2020年（令和2年）4～5月の全国的な緊急事態宣言の発令後、2021年（令和3年）1月から11都府県を対象に緊急事態宣言が再度発令されるに至っている。同様の状況はアジア、欧州、北米等、世界の複数地域で生じている。

このような状況を踏まえると、新型コロナウイルス感染症が収束し、感染症拡大前と同水準の旅行活動が世界全体で可能となる状態（アフターコロナ期）に到達するまでには、一定の期間を要すると予想される。収束までの期間中、まずは国内の旅行需要が、次いで海外からの旅行需要が、情勢に応じて増減を繰り返しつつ、感染症拡大前の水準に向かって徐々に回復していくと考えられる（ウィズコロナ期）。

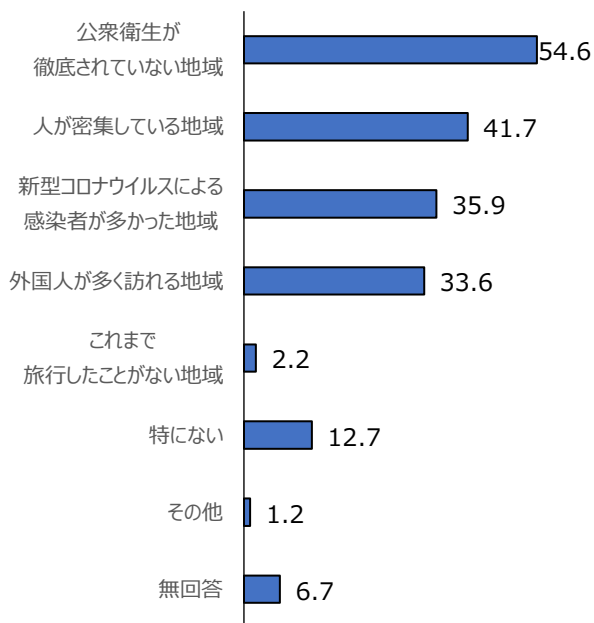
一定期間続くと考えられるウィズコロナ期には、旅行者には感染の予防と旅行活動を両立する「新たな旅のスタイル」の実践が求められる。また、旅行先となる地域においては、適切な感染症対策により旅行者と地域住民の双方に安全・安心な環境を整えるとともに、新たな旅のスタイルに合致する形で旅行先としての価値を提供することが求められる。



※ 観光庁 宿泊旅行統計調査、厚生労働省 オープンデータ（新型コロナウイルス感染症について）をもとに作成。

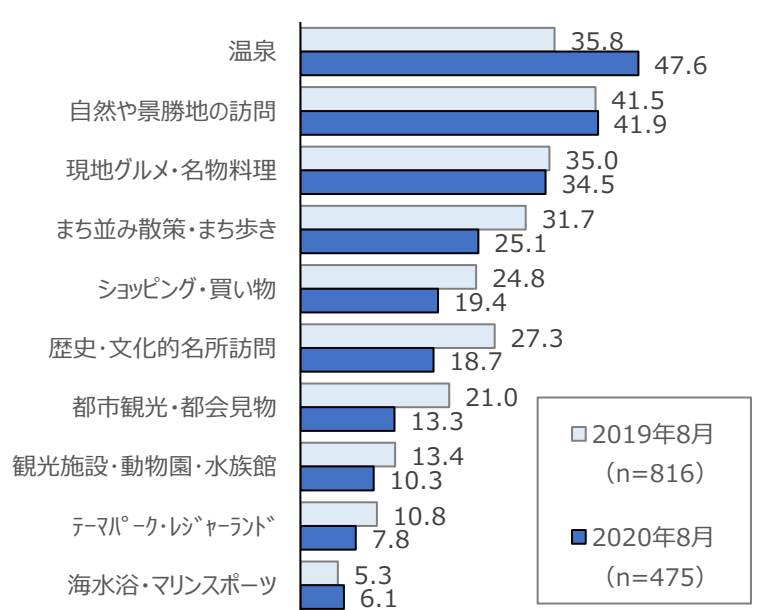
図 1 1 ウィズコロナ期・アフターコロナ期における旅行需要回復シナリオの概念図

このような視点から日本人旅行者の意向をみると、旅行先の選択において否定的に評価する要素として「公衆衛生が徹底されていない地域」、「人が密集している地域」等が高い割合で選ばれている。また、2020年（令和2年）8月に日本人旅行者が実施した旅行の内容を前年同月と比較すると、「温泉」、「自然や景勝地の訪問」の実施割合に増加が見られた。これらから、ウィズコロナ期の旅行においては公衆衛生や密の回避が重視され、温泉や自然資源、景勝地が好まれる傾向が示唆される。大山隠岐国立公園は、このような滞在環境や観光資源を豊富に有するため、ウィズコロナ期にあっても旅行先として高いポテンシャルを有するといえる。



出典：JTBF 旅行動向調査

図 1 2 新型コロナ収束後、あまり行きたくない地域（複数回答、n=1,042、日本人のみ 2020/5/20～6/5 に調査）

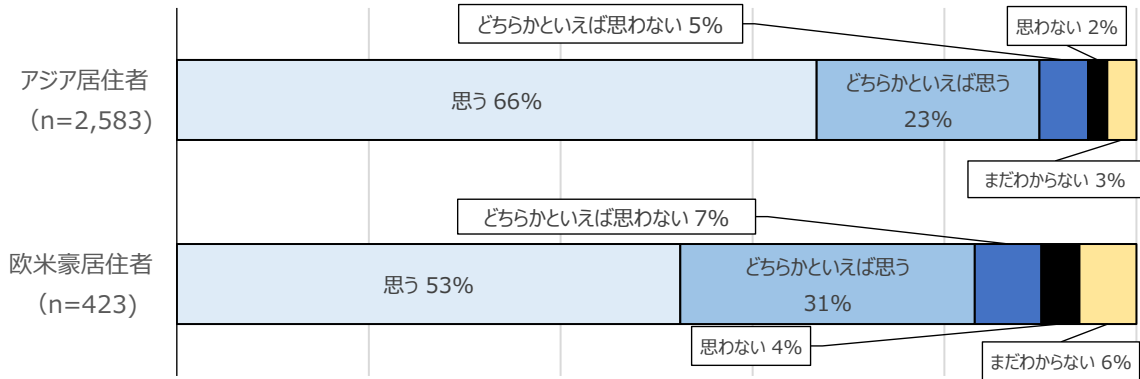


出典：JTBF 旅行実態調査

図 1 3 旅行中に実施した活動の内容・訪問先（複数回答、日本人のみ）

外国人旅行者の需要の回復は、観光目的での国際的な移動が可能となるまで待つ必要があるため、日本人旅行者の回復よりも遅れることになる。一方で、訪日経験のある海外居住者を対象とした意向調査では、感染症収束後の海外観光旅行に対して80%以上の回答者が実施意欲を示している。

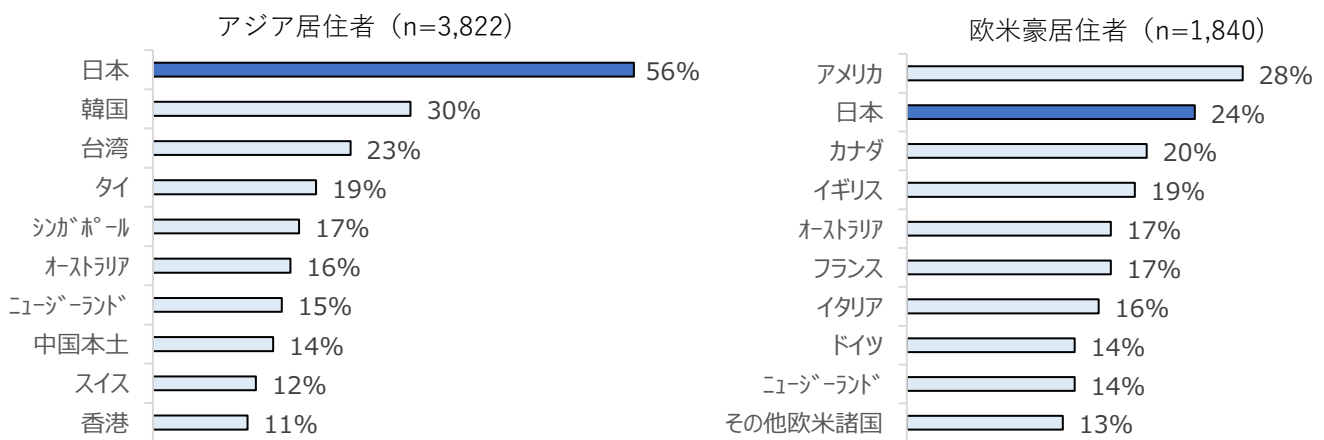
Q. 新型コロナウイルス感染症の流行が収束し、平常状態に戻ったとき、また海外観光旅行をしたいと思うか



出典：アジア・欧米豪訪日外国人旅行者の意向調査（2020年度新型コロナ影響度特別調査）（DBJ・JTBF）
アジア・欧米豪12地域の海外旅行経験者を対象に、2020/6/2～6/12に調査

図 1 4 海外居住者（アジア・欧米豪）の海外観光旅行に対する意向

また、旅行したい国・地域については、日本は、アジア居住者による回答では1位に、欧米豪居住者による回答では2位に選ばれている。



出典：アジア・欧米豪訪日外国人旅行者の意向調査（2020年度新型コロナ影響度特別調査）（DBJ・JTBF）
アジア・欧米豪12地域の海外旅行経験者を対象に、2020/6/2～6/12に調査

図 1 5 海外居住者が新型コロナ収束後に観光旅行したい国・地域（上位10の国・地域）

これらから、感染症を経てもなお国際的な観光旅行の需要は存続しており、かつ、訪問先として日本は高い人気を誇ることが示唆される。また、同調査においては、訪日旅行全般に期待したいこととして「衛生面における配慮、清潔さ、消毒などのウイルス対策全般の継続」が、最も多く選択された。公衆衛生が評価される点は日本人旅行者と同様であり、外国人旅行者の需要回復にあたって、このようなニーズに対応していくことが求められる。

2 目標

2. 1 利用の推進を図る上でのテーマ（ブランディング・テーマ）

大山隠岐国立公園が擁する多彩な資源の魅力を活用し、利用の促進を図っていく上でのテーマを、以下のとおり設定する。

神話と山岳信仰が息づく暮らしとともにある 山・島・海

大山隠岐国立公園は、中国地方最高峰の大山のほか、船上山、蒜山、三徳山、三瓶山等の山々と、ユネスコ世界ジオパークに認定されている隠岐諸島、日本ジオパークに認定されている島根半島海岸部から成る、山と島と海の国立公園である。この国立公園は、神話や山岳信仰の舞台となっており、出雲大社をはじめとする神話にまつわる名所旧跡が点在し、山岳信仰の霊場であり開山 1,300 年の歴史を有する大山や三徳山を擁する。伝統的な神事や祭りが今もなお数多く執り行われているなど、神話や山岳信仰とともに受け継がれてきた暮らしが、山と島と海の自然風景の中に溶け込んでいる。日本の原風景と言える暮らしに触れながら、山と島と海での多彩なアウトドア・アクティビティを楽しむ点が、他の場所にはない、大山隠岐国立公園の魅力である。

2. 2 ターゲットとする利用者層

大山隠岐国立公園への誘客を図る主な利用者層は、以下のとおりとする。

(1) 日本人利用者

1. 2 (2) で示したとおり、鳥取県、島根県及び岡山県を来訪する旅行者の出発地となることの多い近畿地方及び中国地方の居住者を第一のターゲットとする。主な一次交通は、自動車、鉄道、高速バスを想定する。他の地域と比較して、来訪時の時間的・金銭的負担が軽く、大山隠岐国立公園の認知度や、リピーター率も比較的高いと考えられる。入込客数や宿泊数等の「量」を持続的に確保しつつ、滞在日数・消費額・満足度・リピーター率等の「質」の向上を図る。

さらに、従前から一定数の来訪がみられる首都圏居住者を第二のターゲットとする。主な一次交通は、空路を想定する。羽田直行便が就航する空港が周辺地域に複数存在するという大山隠岐国立公園の強みを活かし、魅力的かつアクセス性の高い旅行先として、首都圏における認知度の向上と、誘客の実現を図る。

性別については、旅行先の決定に影響をもつと考えられる女性に着目する。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、関心が高まりつつあるワーケーション等の新たな需要の獲得を図る。

(2) 外国人利用者

東京や京都といった国内の主要な観光地を訪問した経験があり、2回目以降の中長期の滞在を通じて、さらに深く日本を知りたいと考えている訪日旅行リピーターを、主なターゲットとする。

国・地域別では、1. 2 (3) で示したとおり、鳥取県、島根県及び岡山県を来訪する外国人旅行者のうち構成比率の高い台湾、香港、中国、そして欧米豪諸国を主なターゲットとする。なお、2019 年（令

和元年)以前は構成比率が高かったものの、新型コロナウイルス感染症とは別の要因で利用者が減少した韓国については、今後利用の回復が見られる場合にはターゲットに含めることを念頭に置き、状況を注視する。大山隠岐国立公園内の地域間でも、来訪者の国・地域別の構成比は異なることから、必要な場合は各地域でターゲットとする国・地域を設定する。

当面は、新型コロナウイルス感染症による日本への入国制限の状況等を注視しつつ、それぞれの国・地域の人々の関心やニーズを考慮してプロモーションを実施し、大山隠岐国立公園の認知度の向上を図るとともに、受入環境整備を着実に進める。その上で、入国が可能となった圏域から順に、誘客を図る。

2.3 目標

本プログラムの目標は、以下の通りとする。

- I. 自然と文化を活かした上質な観光を提供し、大山隠岐国立公園ならではの魅力を極める。
- II. 新型コロナウイルス感染症による影響前の水準まで国内外からの利用者数を回復させる。

なお、新型コロナウイルス感染症が収束した際には、必要に応じて、目標 II について見直しを行う。

2.4 取組の方針

目標を達成するための取組の方針を、以下のとおり設定する。

(1) 自然と調和した「持続可能な観光」の実現

大山隠岐国立公園の自然の魅力を損なうことなく、自然の保全と両立する持続可能な形で、利用を推進する。利用料の一部を保全活動に還元するなど、利用者負担の保全の仕組みづくりにも取り組む。さらには、自然のみならず環境全般や社会文化、経済への影響に十分に配慮した「持続可能な観光(サステイナブル ツーリズム)」を進め、「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に貢献することを目指す(18ページのコラム参照)。

(2) 感動を与える体験の提供

自然を含む地域資源の四季折々の魅力を最大限引き出した「今だけ」「ここだけ」の体験を利用者に提供できるよう、雨天時の対応も考慮したツアー(旅行商品)開発やガイドの育成等を一層進める。また、広域にまたがる大山隠岐国立公園の見どころをより多く楽しんでもらえるよう、サイクリングロードやロングトレイル(長距離自然歩道等)も活用して、国立公園内の地域間や周辺地域と連携し、周遊を促進する。

(3) 多様な利用・需要に応じたサービスの提供

外国人を含め、ファミリー層、若年層、障害者、富裕層等の幅広い利用者層や、新型コロナウイルス感染症対策、ワーケーションやグランピングのような新たな滞在・宿泊形態、キャッシュレス決済の導入等の多様な需要に応じたサービスの提供を図る。これによって同時に、社会情勢や利用の需要を含め市場環境の変化に強い安定的な集客を目指す。

(4) 安全・安心の確保と、利便性と景観の向上

施設の整備や復旧、改修を進め、利用者の安全・安心の確保や、障害の有無や年齢、言語等の違いを問わず多くの人が利用できるユニバーサルデザイン化、国立公園にふさわしい上質なまちなみの形成を図る。

(5) 戦略的な誘客・プロモーションの実施

大山隠岐国立公園の関係機関・団体のみならず、他の国立公園を含む周辺地域の機関・団体、政府観光局（JNTO）や航空会社等の全国規模の組織とも連携して、着実に認知度を高め、来訪の動機を醸成し、来訪のプランニングを助けるような、旅行者が来訪に至るまでの各段階に対応し、かつ、心に残る誘客・プロモーションを行う。同時に、魅力的な観光地域づくりにつながるよう、地域の魅力について住民に改めて周知を図る。

2. 5 指標

目標の達成度をはかる指標は以下とする。なお、必要に応じて、追加的な指標を設定し参照する。

(1) 目標Ⅰに対応する指標

指標	検証方法	実施単位
利用者満足度	国立公園満喫プロジェクトの一環として、環境省で実施する全国的な調査の結果のうち、大山隠岐国立公園に係る結果を用いる。必要に応じて補完調査を行う。	公園全域
一人あたり消費額		
一人あたり滞在日数		
リピーター率		
ツアー提供数	事業者の協力を得て、大山隠岐国立公園及びその周辺地域で実施されているツアーについて調査し、把握する。	各地域

(2) 目標Ⅱに対応する指標

指標	検証方法	実施単位
日本人旅行者 延べ宿泊者数	観光庁が実施する「宿泊旅行統計調査」の結果のうち、以下の市町村内の宿泊施設に宿泊した旅行者の延べ宿泊者数を算出する。 ・大山隠岐国立公園の区域が含まれる市町村 ・大山隠岐国立公園の区域に隣接し、主な宿泊拠点となっている市町村	公園全域
外国人旅行者 延べ宿泊者数		
クルーズ船等の利用者数	境港に寄港したクルーズ船等の利用者のうち、大山隠岐国立公園内に行くツアーの参加者数等から推計する。	

✓ コラム 「持続可能な観光」と「持続可能な開発目標（SDGs）」

国連世界観光機関（UNWTO）は、「持続可能な観光（サステイナブル ツーリズム）」を、「訪問客、産業、環境、受け入れ地域の需要に適合しつつ、現在と未来の環境、社会文化、経済への影響に十分配慮した観光」と定義している。こうした考え方に加えて、観光のもつ広範な影響力から、観光分野は、2015年の国連サミットで採択された、2030年までに持続可能なより良い世界の実現を目指す「持続可能な開発目標（SDGs）」の17のゴール全てに、直接的又は間接的に貢献できるとされている。

持続可能な開発目標（SDGs）への観光分野の貢献の例（国連世界観光機関発行のリーフレットを参考に掲載）

<p>1 貧困をなくそう</p> 	<p>ゴール1 雇用の創出を通じて収入の機会を提供</p>	<p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p> 	<p>ゴール7 再生可能エネルギーへの移行を促進し、地域のエネルギー対策にも貢献</p>	<p>13 気候変動に具体的な対策を</p> 	<p>ゴール13 運輸や宿泊部門等において、エネルギー消費を削減し、再生可能なエネルギー源に転換</p>
<p>2 飢餓をゼロに</p> 	<p>ゴール2 観光地における地場産品の生産・利活用・販売の促進等によって農業の生産性を向上</p>	<p>8 働きがいも経済成長も</p> 	<p>ゴール8 働きがいのある雇用機会を提供し、経済成長を推進</p>	<p>14 海の豊かさを守ろう</p> 	<p>ゴール14 海洋生態系・資源を保全し、持続可能な形で利用</p>
<p>3 すべての人に健康と福祉を</p> 	<p>ゴール3 観光による経済成長を通じて健康や福祉に波及効果をもたらす</p>	<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> 	<p>ゴール9 インフラの強化と産業の革新を持続可能で資源効率の高い形で促進</p>	<p>15 陸の豊かさを守ろう</p> 	<p>ゴール15 陸域生態系の保護と再生、持続可能な利用を促進</p>
<p>4 質の高い教育をみんなに</p> 	<p>ゴール4 職業訓練への投資を促すとともに、生涯学習の機会を提供</p>	<p>10 人や国の不平等をなくそう</p> 	<p>ゴール10 地域振興を促進し、地域間格差を是正</p>	<p>16 平和と公正をすべての人に</p> 	<p>ゴール16 多様な文化的背景をもつ人々との出会いを通して、文化や信仰を越えた寛容と理解を育む</p>
<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p> 	<p>ゴール5 収入の機会を通じて女性の自立促進・地位向上を推進</p>	<p>11 住み続けられるまちづくりを</p> 	<p>ゴール11 住民だけでなく観光客も恩恵を受けられる環境に優しいまちづくりを推進</p>	<p>17 パートナースhipで目標を達成しよう</p> 	<p>ゴール17 官民連携や多様な利害関係者の連携を強化</p>
<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p> 	<p>ゴール6 観光における効率的な水の利用と適切な排水管理・汚染防止</p>	<p>12 つくる責任つかう責任</p> 	<p>ゴール12 持続可能な消費と生産を实践</p>		

3 優先的な取組

大山隠岐国立公園満喫プロジェクトとして、優先的・重点的に行うべき取組を以下に記載する。個別の取組の一覧は別紙1に示す。

3.1 国立公園全域及び複数の地域をまたぐ取組

(1) 国立公園全域における優先的な取組

1) 広域の周遊促進、二次交通対策

- ・ 個人旅行を行う訪日外国人を対象とする、中国5県の観光施設の入場券等を盛り込んだスマートフォンアプリの観光パス「Discover Another Japan Pass」について、JRや高速バス、路線バス等の外国人向けの交通商品の購入機能を持たせるなど、利便性の向上を図る。

2) 誘客・プロモーションの実施

- ・ 大山隠岐国立公園への来訪者や地域の在住外国人による発信力も借りながら、動画配信サイトを含むSNSやウェブサイト上で大山隠岐国立公園の魅力を発信し、認知度の向上と来訪動機の醸成を目指す。
- ・ 大山隠岐国立公園とその周辺地域における体験ツアー等について、瀬戸内海国立公園や山陰海岸国立公園等と連携した広域のものを含む周遊ルートの情報と合わせて、オンライン・トラベル・エージェント（OTA）や商談会等の機会を活用して、プロモーションを行う。
- ・ 日本の国立公園の魅力を国内外に発信することを目的とする「国立公園オフィシャルパートナーシッププログラム」を締結している企業や団体との連携を推進する。

(2) 島根県内の4地域における優先的な取組

1) 自然環境の保全、体験ツアーの充実化

- ・ 希少野生動植物や在来種の保全活動を体験ツアーとして開発し、持続可能な取組となるよう検討する。
- ・ 朝・夕のプログラム開発など更なる体験の充実に取り組み、宿泊を伴う滞在の延長を促進する。

3. 2 大山蒜山三徳山地域で実施する取組

(1) 大山蒜山三徳山地域の概要

大山蒜山三徳山地域は、中国地方最高峰の大山から蒜山と毛無山に亘る山地一帯と、三徳山一帯から成り、豊かな自然を有する。大山の山頂付近には国指定特別天然記念物に指定されている国内最大のダイセンキャラボク群落が分布するとともに、固有種のダイセンアシボソスゲをはじめとする高山植物が多く生育しており、中腹には西日本最大規模のブナ林が広がる。蒜山はなだらかな山容を有しており、その麓には草原景観が広がる。毛無山にはまとまった面積のブナ林が残っており、三徳山では照葉樹林から落葉広葉樹林へと標高に沿って移行する植生の垂直分布が見られる。この地域は動物相も豊かであり、鳥類ではイヌワシやクマタカ、ブッポウソウ等、両生類ではオオサンショウウオ等、昆虫類ではフサヒゲルリカミキリやゴマシジミ等の絶滅危惧種を含む多くの種が生息している。

このような豊かな自然を保全するための官民の取組が各地で行われてきている。特に、1985年（昭和60年）から続けられている、登山者の踏圧により裸地化した大山山頂の植生復元の取組「一木一石運動」は、オーバーユースに対する先進的な取組として全国的にも有名である。

また、この地域は、大山、船上山及び三徳山が伯耆三嶺（ほうきさんれい）と称され、古来より山岳信仰の霊場となってきたこと等を背景に、文化資源も豊富である。大山と三徳山は開山1,300年以上の歴史をもち、それぞれ日本遺産としての認定を受けている。また、国宝である三徳山の投入堂や、国指定重要文化財である大神山神社奥宮や大山寺阿弥陀堂、三佛寺文殊堂等、国指定史跡である船上山行宮跡等の多数の文化財が現存する。

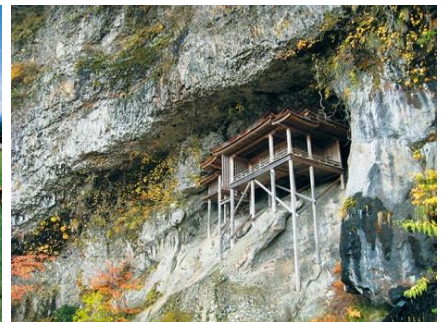
利用については、大山や榎水高原、船上山、大山滝、蒜山三座等での登山・ハイキングや自然探勝、大神山神社や三徳山三佛寺等の寺社参詣、大山寺地区や奥大山・鏡ヶ成、蒜山高原でのキャンプ、スキー、サイクリング等が挙げられ、四季を通じた多様な利用がなされている。とりわけ大山は標高1,729m（剣ヶ峰）の独立峰で、山頂周辺では眼下に日本海が見えるほか、隠岐諸島、蒜山三座や三瓶山、中国山地の山々も望める360度の眺望が開け、年間6万人前後の国内外からの登山客で賑わっている。



大山



蒜山高原・蒜山三座



三徳山投入堂

図 1 6 大山蒜山三徳山地域の主な見どころ

(2) 重点地区及び優先的な取組

1) 大山寺及び大山山頂

(地区概要)

大山寺地区は、大山登山の出発点であるほか中国地方で最大規模のスキー場があるなど自然を楽しむアクティビティの核心地であるとともに、一帯が国の史跡「大山寺旧境内」として指定されている文化財であり、さらには旅館やホテル、キャンプ場が隣り合う宿泊拠点でもある。大山登山やスキーに加え、大神山神社奥宮や大山寺への参詣、周辺のブナ林の散策、カフェやショップの利用等が楽しまれている。

大山の最高峰は標高 1,729m の剣ヶ峰であるが、崩落のため剣ヶ峰に至る縦走路は立入りが禁止されており、登山者が行くことのできる頂上は標高 1,709m の弥山となっており、ここでいう大山山頂も弥山を指す。大山山頂には、いずれも大山寺地区を出発点とする夏山登山道と、これに5合目付近で合流する行者谷登山道からアクセスできる。大山山頂では、その優れた景観の維持と利用を両立させるため、木道や避難小屋等の必要な施設を整えるとともに、地元団体やボランティアによる植生復元や施設の維持のための活動が盛んに行われている。

(優先的な取組)

① 協力金等を活用した大山の保全と持続可能な利用

- ・ 入山協力金制度の本格導入に向けて、実証実験等を実施する。

② 自然・文化体験ツアーの充実化、ガイドの育成

- ・ 星空観察ツアーや日本遺産「大山」のストーリーを活かしたツアー等、大山寺を発着点等とするツアーの充実化・磨き上げを行うとともに、ガイドの育成を推進する。



③ 施設の整備・改修、まちなみ景観の改善

- ・ 植生保護のための山頂付近の木道を含め、大山5合目から山頂までの区間の登山道を改修するとともに、元谷から大山寺に至る区間において誘導看板等を設置し、登山者の利便性を向上させる。
- ・ 安全・安心なアウトドア拠点施設として、夏山登山道下山口と南光河原駐車場登山口の交差部に、自動翻訳機による無人インフォメーション機能を有し、新型コロナウイルス感染症防止対策の一環としてのサーモカメラ、登山届ポスト等を併設する総合案内所を整備する。
- ・ 外国人利用者のニーズも考慮した運営を行うことを念頭におき、民間事業者の知見を活用してキャンプ場再整備を実施する。
- ・ 大山寺参道周辺における老朽化施設の改修等を行い、まちなみ景観の改善を図る。

2) 奥大山・鏡ヶ成

(地区概要)

奥大山は大山の南壁から岡山県との県境までの地域を指し、鏡ヶ成を含む。鏡ヶ成は、烏ヶ山、象山及び擬宝珠山に囲まれた標高 930m の盆地状の高原で、登山や湿原散策、ピクニック、キャンプ、

スキー等が楽しまれている。鏡ヶ成湿原では、地下水位の低下等が原因となり生態系の劣化の傾向が見られたことから、2000年（平成12年）から湿原再生の取組が行われている。その他の奥大山の見どころとしては、紅葉の名所である鍵掛峠や、静謐な雰囲気の木谷沢溪流が挙げられる。豊かな自然の恵みであるミネラルウォーターの採水地や工場もある。

（優先的な取組）

- ① 湿原と草原の保全と持続可能な利用
 - ・ 鏡ヶ成湿原・草原の保全・再生と利活用のための取組を実施する。
- ② 観光振興に向けた検討
 - ・ 新たな観光地化を目指して、現在休止中の奥大山スキー場やその周辺の施設、観光資源の活用計画を策定し、同計画に基づき整備を進める。



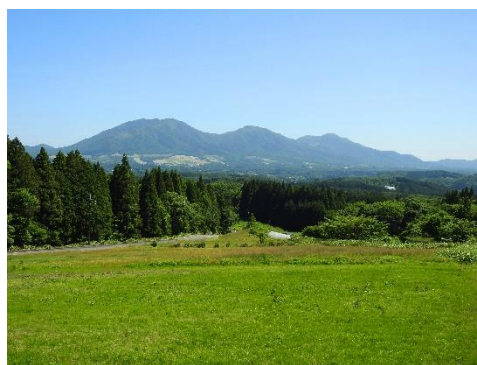
3) 蒜山

（地区概要）

蒜山は、岡山県と鳥取県の境に位置する上蒜山、中蒜山、下蒜山から成る連山の蒜山三座と、その裾野に広がる蒜山高原で構成される。山麓の草原景観の維持や、草原に生息するフサヒゲルリカミキリ等の絶滅危惧種の保護のため、地元団体やボランティアにより山焼き等の保全活動が行われている。蒜山高原は、避暑地やリゾート地として知られている。高原や田園の牧歌的な風景の中を走るサイクリングをはじめとして、登山やキャンプ、日本名水百選の一つである「塩釜の冷泉」や周辺の観光・食事施設の周遊が楽しまれている。

（優先的な取組）

- ① 自然環境の保全と持続可能な利用
 - ・ 蒜山自然再生協議会を設立し、自然資源の持続的な保全活用や観光の在り方を内容に含む自然再生全体構想と実施計画を策定し、山焼きを持続的に行う体制整備や、草原再生のための活動の実施、持続的な取組とするための資金調達手法について検討する。
 - ・ 蒜山大山スカイライン沿線においてナラ枯れ被害木の伐倒整理を行う。
- ② 体験ツアーの充実化、ガイド等の育成
 - ・ 蒜山地区の観光に係る基礎知識の習得や感染症対応を含む接客スキルの向上、誘客のための発信等について、ガイド等への研修を実施する。
- ③ 施設の整備・改修
 - ・ 塩釜園地内の湿生植物園を親水公園に再整備する。



(3) 地域全体又は重点地区以外での優先的な取組

1) 自然環境の保全

- ・ シカの生息状況調査と、個体数を減少させるためシカの捕獲を行うとともに、必要に応じて植生保護のための対策等を検討する。
- ・ ナラ枯れ被害木の適切な処理や森林の手入れによって、被害の拡大の防止と利用者の安全の確保を図る。

2) 周辺地域との連携による周遊・滞在型観光の推進

- ・ 大山蒜山三徳山地域内での周遊や、島根半島東部地域にまたがる周遊を促進するルートを充実化するとともに、ファミトリップの実施等を通じて、その情報を発信する。
- ・ 周辺地域のキラークンテンツであるオオサンショウウオ保全体験ツアーの磨き上げや生息地保全の取組を行うとともに、大山蒜山三徳山地域等への周遊を促す形で情報発信を行う。

3) 施設の整備・改修

- ・ 大山滝吊橋を改修するとともに、中国自然歩道の一向平から三徳山に至る区間において歩道の改修や標識整備等を行う。
- ・ 三徳山において休憩施設を新設するとともに、蜜坊駐車場におけるトイレの新設について検討する。
- ・ 中国自然歩道とサイクルロードが重複するロングトレイルルートについて、各種誘導看板や路面標示等を設置し、ユーザーの利便性を向上させ、サイクルツーリズムの聖地化を目指す。
- ・ 大山周辺のロングトレイル上にある老朽化したベンチやテーブル等を改修し、利便性の向上と安全・安心の確保を図る。

3. 3 隠岐地域で実施する取組

(1) 隠岐地域の概要

隠岐地域は、島根半島の沖合約 40～80km に浮かぶ島後（島）、西ノ島、知夫里島、中ノ島の 4 つの有人島の海岸線周辺と、島後の大満寺山系から成る。西ノ島、知夫里島、中ノ島とそれらの周辺の無人島は、群島として島前と呼ばれる。

隠岐諸島は、ユーラシア大陸の一部であった時代、湖底及び海底にあった時代、火山活動によって隆起した時代、島根半島と陸続きになった時代等を経て形成されたと考えられている。このような地質学的な成り立ちや、対馬暖流の影響により、隠岐諸島には南方系と北方系の植物が共存するなど、特有の生態系が形成されており、オキシクナゲ、オキタンポポ、オキサンショウウオ、オキノウサギ等の固有種・固有亜種も生育・生息する。

文化的側面からは、遠流の島として後鳥羽上皇、後醍醐天皇ゆかりの地や資料が多く存在することや、祭や神事、古典相撲や牛突き等の多様な文化が受け継がれていること等が特筆される。

学術的価値の高い地質学的な成り立ちや、北方系・南方系の植物が共存する独自の生態系、古代から続く人の営みとの 3 要素が総合的に評価され、隠岐諸島は 2013 年（平成 25 年）に世界ジオパーク（現：ユネスコ世界ジオパーク）に認定されている。

代表的な見どころとしては、島後では浄土ヶ浦の多島海景観、最北端の断崖である白島海岸、よろい岩やローソク島等が、島前では三島に抱かれた穏やかな内海景観や、海蝕によって生み出された断崖である摩天崖（国賀海岸）や赤壁、明屋海岸が挙げられる。

利用については、春季から秋季を中心に、主要 4 島間の周遊、遊覧船や遊歩道沿いで自然探勝、シーカヤックや釣りをはじめとする各種マリニアクティビティ、寺社参詣や史跡の訪問、サイクリング等が楽しまれており、一年を通した体験メニューとしてトレッキングツアーの開発も進められている。



ローソク島



赤壁



国賀海岸（摩天崖）

図 1 7 隠岐地域の主な見どころ

(2) 重点地区及び優先的な取組

1) 浄土ヶ浦・大満寺山・鷲ヶ峰

(地区概要)

浄土ヶ浦海岸は優れた多島海景観を有し、他の地域では見られない北方系、南方系、大陸性の植物の混在が観察できる島後における屈指の見どころである。ここでは遊歩道の散策やデッキからの景観鑑賞以外にも、キャンプ、シーカヤック、休憩施設での食事等が楽しまれている。周辺の大満寺山、鷲ヶ峰では、若者を中心にトレッキングを楽しむ人が増加しており、屏風岩、トカゲ岩といったジオサイトや自然回帰の森では、奇岩とともに隠岐の固有種であるオキシクナゲなど様々な植物を観察できることから人気が高い。

(優先的な取組)

① 自然体験アクティビティの充実化

- ・ 民間事業者と連携して、通年型のトレッキングツアー、シーカヤックツアー等の自然資源を活用したアクティビティの充実について検討する。



② 施設の整備・改修

- ・ キャンプ場や遊歩道等を再整備し、受入環境の向上を図る。



(3) 地域全体又は重点地区以外での優先的な取組

1) 自然体験ツアーの充実化、ガイドの育成

- ・ 隠岐地域における登山・トレッキングツアーの内容を充実させるため、通年で楽しめる登山・トレッキングルートを決めるとともに登山・トレッキングマップを作成し、ツアーの開発と販売を行う。
- ・ 隠岐地域におけるシーカヤックツアーの充実を図るため、新たなコース開拓、シーカヤック認定ガイドの育成、ツアー催行体制の整備を行うとともに、旅行商品の造成等を実施する。
- ・ 各島において、自転車、E-バイク（スポーツタイプの電動アシスト自転車）、シーカヤック、キャンプ、トレッキング等のアクティビティを組み合わせた体験ツアー等の造成・販売を行う。
- ・ 隠岐の島町の「隠岐ジオゲートウェイ」、海士町の「Entô」などの各島にある整備済み又は整備中の各島の情報拠点施設を活用してツアーの商品化を行う。

2) 施設の整備・改修、景観の改善

- ・ 2020年度（令和2年度）に（一社）隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会が策定した施設整備計画に基づき、案内看板・誘導標識等を整備するとともに、老朽化した施設の撤去を計画的に行う。

3) 周遊・滞在型観光の推進と観光案内

- ・ (一社)隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会と隠岐観光協会と合併、DMO 登録することにより、「隠岐ユネスコ世界ジオパーク」の豊かな地域資源を活かした旅行商品の造成と、マーケティング結果に基づく効果的なプロモーションを実施し、隠岐諸島への誘客を促進する。

3. 4 島根半島東部地域で実施する取組

(1) 島根半島東部地域の概要

島根半島東部地域は、半島東端の地蔵崎から西は鹿島町御津へ至る海岸線周辺の一帯である。海岸線には半島や入り江、断崖絶壁が連続する複雑な地形が形成され、国指定名勝天然記念物である加賀の潜戸（くけど）、国指定天然記念物である多古の七ツ穴等の特異な海食景観が成立しており、2017年（平成29年）から日本ジオパークに認定されている。海岸山地には関の五本松に代表されるクロマツや、カシ類・シイ類・ヤブニッケイ等の常緑広葉樹林がみられる。また地蔵崎は小鳥類の春の渡りの中継地となっており、シロハラホオジロやカラアカハラ、ヤツガシラ等の珍しい種も観察されている。

文化的側面からは、この地域は国引き、国譲りに代表される神話の主要な舞台である。周辺には、国譲り神話に由来する青柴垣神事や諸手船神事をはじめとする各種神事が継承される美保神社や、雲津浦の諏訪神社など、神話に由来のあるものが多い。

近世以降には日本海航路の啓開に伴って複数の要港が設置され、地蔵崎の美保関灯台や、かつて海上からの目印となった関の五本松等から、その経歴を伺うことができる。関の五本松を唄った「正調関乃五本松節」は、安来節と共に本邦の代表的な民謡として知られている。

利用については、美保神社の参詣と組み合わせた地蔵崎や五本松公園周辺の散策、遊覧船による加賀の潜戸や多古の七ツ穴等の自然探勝のほか、海水浴や釣り、シーカヤック等が楽しまっている。また、出雲大社と美保神社の両社に参拝する「えびすだいこく両参り」、四十二浦巡り等、域外各地と組合せた周遊観光も行われている。



加賀の潜戸



多古の七ツ穴



地蔵崎

図 18 島根半島東部地域の主な見どころ